

シモツケソウ *Filipendula multijuga* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。愛知県では希少な植物で、生育範囲が狭く、開発により減少している。

【形態】

多年生草本。高さ 30～80cm になる。葉は根生または茎上に互生し、奇数羽状複葉、頂小葉は大きく円形で幅 5～10cm、掌状に 5～7 に中～深裂し、基部は心形、裂片は鋭尖頭で、辺縁には鋸歯と欠刻がある。側小葉は 8～10 対あって、下部のものほど小さく、長さ 3～30mm である。托葉は膜質で、茎に沿って直立する。花期は 7～8 月、茎の先端に集散花序をつけ、花は紅色で直径 4～5mm、花弁は卵円形で、辺縁に小さい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 55927, 1990-7-25)。
分布範囲は狭いが、その範囲では比較的多い。

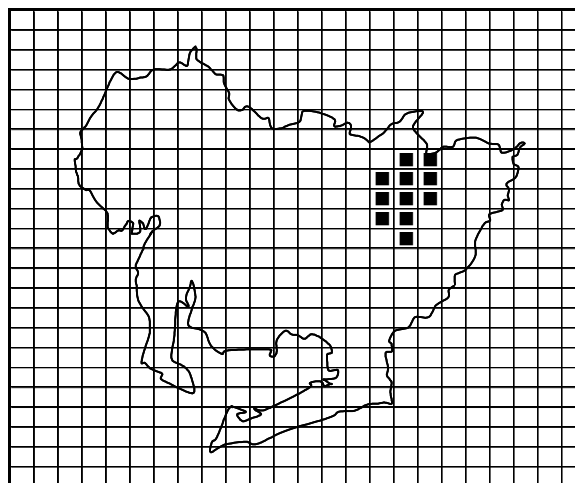
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州の主として太平洋側の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在の所はまだ比較的多いが、耕地整理等により山すその里草地が開発され、次第に減少している。開発を免れた場所でも、場所によっては周辺の樹木が生長して被陰され、ほとんど花が咲かない状態になっている。場所によっては、園芸目的で採取されている。

【保全上の留意点】

山間部の水田周辺の里草地 (いわゆるボタ) は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、花がシモツケに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.123, 平草本Ⅱ p.175, 平新版 3 p.28, SOS 旧版 p.57.